

大学間連携共同教育推進事業 事後評価結果

連携の種類	地域連携	整理番号	18
取組名称	彩の国大学連携による住民の暮らしを支える連携力の高い専門職育成		
連携校 ※下線部は代表校	埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学		

大学間連携共同教育推進事業評価委員会による評価

〔総括評価〕

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

〔コメント〕

【教育プログラムの構築について】

本取組では、地域住民の暮らしの課題を他職種の連携により発見・解決できる人材を育成することを目的としている。教育プログラムは連携校間の立地、時間割、授業内容の統一等が課題として挙げられた中、連携校の学生が同じ場で学ぶ共同授業、共通の教育目標のもと共通教材を使用した各大学での授業（4大学教員による共同授業又は各大学の教員による授業）を展開するなど、課題を改善に向けた取組を実施しており、高く評価できる。

また、教育プログラムの実践とともに、地域基盤型 IPW のコンピテンシーの作成、コンピテンシーを基にしたルーブリックの作成、教員ファシリテータ研修の実施といった質保証システムの構築につながっていることも評価できる。

【連携・実施体制の構築について】

各大学における学長を中心としたマネジメント体制がとられ、代表校・連携校間の役割分担の確認の下に各大学における教職員の配置が図られたと評価できる。

ステークホルダーとして実際に学生が接する地域住民を重視し、実習受け入れ施設との連携を強めるため、講習会や意見交換会を開催するなど、担当教員と施設職員の協働に向けた取組が埼玉県を中心とする各機関連携協定に結実しており、高く評価できる。外部評価の体制も適切に構築され、評価結果に基づく改善も行われている点も評価できる。

【成果の活用と今後の展望について】

成果については、国内はもちろん国外でも学会報告を行うなど、学術集会・シンポジウム・研修会等での実践報告を繰り返し行っている。そこには「彩の国連携科目」履修学生による報告も含まれ、他大学等への成果共有化の方法として評価できる。その他 JICA 関連企業からの見学があるなど、国際的な波及効果も期待できる。

補助期間終了後は、前述した埼玉県を中心とした新たな連携協定に基づき発展的に展開されることが期待できる点は評価できる。